

生物多様性保全実習報告

2015年9月16～18日の3日間、裏磐梯地域で生物多様性保全実習を行いました。今回の実習は受講生7名、教員2名、ティーチングアシスタントである黒沢研究室の大学院生3名、スタディ・リエゾンである同研究室の4年生2名と人間発達文化学類の水澤研究室の4年生1名で行いました。

初日は、秋元湖東岸の湿地生植物群落で帯状コドラート調査を行いました。陸域から湖内に向けて5mの間隔を空けながら1m×1mのコドラートを張り、コドラート内の種構成および種ごとの被度(%)を記録して、陸域から水域への植生の変化を調査しました。コドラート調査の際にトランシットコンパスを用いて開始点からの地形の変化も合わせて記録しました。

2日目は、外来種の駆除作業を行ないました。午前は、柳沼で、外来のハッカ属、要注意外来生物のキショウブ、コカナダモを駆除しました。ハッカ類は断続した駆除の成果か、年々生育範囲が減少しているように思います。一方で、キショウブは今年も優勢で複雑に入り組んだ根茎の駆除が大変でした。コカナダモは今年の水位変動が大きかった為か浅瀬にはほとんど生育しておらず、胴長の使用だけではほとんど駆除ができませんでした。午後は、裏磐梯ビジターセンター職員や地元の団体や住民と協力して、曾原地区の曲沢沼で要注意外来生物のコカナダモを駆除しました。この湖沼では昨年まではコカナダモのみの生育しか確認されていみませんでしたでしたが今年はおヒルムシロの生育が確認されました。

最終日は、再び秋元湖で水生植物群落のコドラート調査を行いました。胴長班とゴムボート・フローター班に分かれて2m×2mのコドラートを張り、水生植物の種組成および種ごとの被度(%)を調査しました。ボートやフローターの扱いに苦労しながら水中のタチモ、セキショウモ、ヒロハノエビモ、マツバイ、ヒルムシロなどの様々な水生植物を確認していました。

2日目は生憎の雨でしたが、3日間の実習を無事に終えることができました。



2日目の曲沢村でのコカナダモ駆除風景



3日目のボート組のコドラート調査風景